



六郷中だより

六郷中学校だより 第1号

令和 4年 4月20日

発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



コロナ禍3年目、新年度がスタート！

3月25日に開花した校庭の桜が、2週間後の4月7日の入学式にあわせたように満開となり、新入生13名を迎えての六郷中学校の新年度がスタートしました。今年度の全校生徒は、昨年より9名減の57名となりましたが、コロナ禍となり3年目となった新年度。過去2年間の感染防止対策の経験と小規模校としてのメリットを活かしながら、今年度の教育活動を今まで以上に充実させていきたいと考えております。

昨年度に引き続き、六郷中だよりをとおして、保護者の皆さんや地域の皆さんに、六郷中学校の紹介やお願い、お知らせを担当します、六郷中学校の校長 深澤裕治 と申します。今年度もよろしくお願ひいたします。

* * * * *

新年度を迎え、生徒たちに次のような願いを伝えました。始業式においては、新2、3年生に対して、現在のコロナ禍を『壁』にたとえ、「壁を越えられない障害として考えるか、それとも壁を越えるべき努力や挑戦すべき課題と考えるかで、これからの皆さんが進むべき未来は大きく違ってきます」「どんな上級生になりたいか、上級生としてどんな行動をしていきたいか、目指すべき姿をしっかりと考え、一年間頑張っていきましょう」、また、全校生徒が参加しての入学式では「新しいことにチャレンジすることで、今まで気づかなかった自分自身の良さや長所、そして、やり続けたい事や力をつけたい事、さらには将来の夢や目標が見つかります」と、私の思いを伝えました。

3年目となったコロナ禍においては、今までの2年間の経験と最新の知見をもって、また、生徒数の減少に関しては、小規模校としてメリットを最大限に活かしながら、『創造と課題解決』の視点に立って、日常の授業、学校行事、部活動等の教育活動を推進していきたいと考えています。

例えば、新型コロナ感染拡大防止対策として互いに近距離となるため、今まで音楽の授業において実施していなかった合唱活動も、音楽室ではなく十分な換気行つての体育館へと変更することで生徒間の距離をとつての合唱が実施可能と判断し、今年度は、年度当初から合唱の授業をスタートすることができました。

生徒数の減少で、課題となつてきたのが本校の部活動です。本来、生徒が希望する部活動で日常的な活動を行うべきですが、部員数の減少により、本校単独ではチームが編成できない状況となつてきました。昨年度は他の部活動から助っ人を借りながらも大会に出場し、成果を上げることがありましたが、日常の部活動においては、紅白戦を行うこともままならず、顧問からボール出しをしても正規の人数に足りない中での練習となるため、連携プレーにつながらないこともありました。そこで、昨年度、一年間をかけて、本校の部活動のあり方の検討を積み重ねた結果、野球部と女子バレーボール部を6月の総合体育大会をもって休部とし、新たにバドミントン部を新設することといたしました。在籍する生徒の皆さんには痛みを伴う改編となり、大変心苦しい課題解決となりますが、年間をとおして充実した日常の活動が可能となり、また将来的にも持続可能となるよう、苦渋の判断となりました。

保護者の皆様方ならびに地域の皆様方のご理解とご協力をいただきながら、これから一年間、よりよい六郷中学校を目指して、精一杯努力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。



正面玄関前のスズラン 4/20